

2026 年ヒラメ稚魚分布密度調査結果（日本海）について

当研究所では日本海における天然ヒラメの稚魚分布密度調査を1980年から行っており、2026年は7月8日、8月5日、9月8日に桁網（水工研Ⅱ型）を用いてつがる市沖8点で調査を行いました（図1）。ヒラメの分布密度は桁網の漁獲効率を0.28とすると0-233個体/1,000m²の範囲にありました（表1）。採捕したヒラメの全長組成は7月8日に水深5mで30-39mm、10mで20-29mm、8月5日に水深5mで30-59mm、10mで30-39mm、9月8日に水深5mで50-69mm、10mで60-99mmが主体となっていました（図2）。水深別平均分布密度の最高値を着底指数とすると、2026年は192で、1980年以降の平均値143を上回る水準でした（図3）。

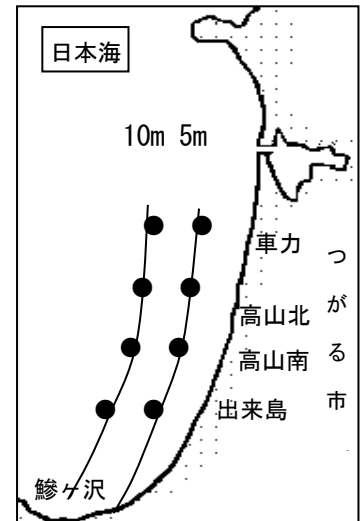


図 1 調査地点

表 1 ヒラメ稚魚分布密度

日本海									(個体/1,000m ²)	
水深		5m			10m				5m	10m
調査月日/調査点	出来島	高山南	高山北	車力	出来島	高山南	高山北	車力	平均	平均
2026. 7. 8	138	48	49	90	45	24	6	14	79	21
2026. 8. 5	233	120	163	217	70	99	57	135	192	89
2026. 9. 8	34	0	21	13	6	6	47	0	17	14

* 桁網の漁獲効率を0.28として算出した。

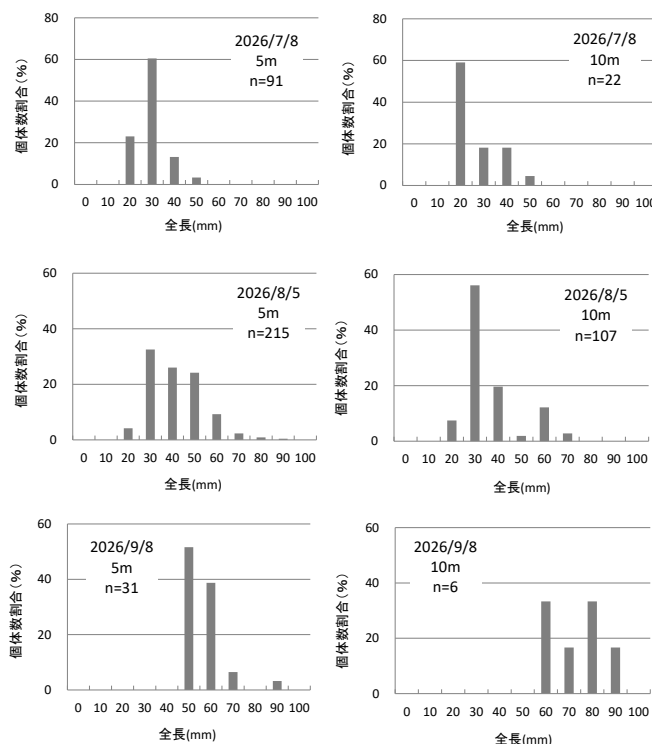


図 2 採集したヒラメ稚魚の全長組成

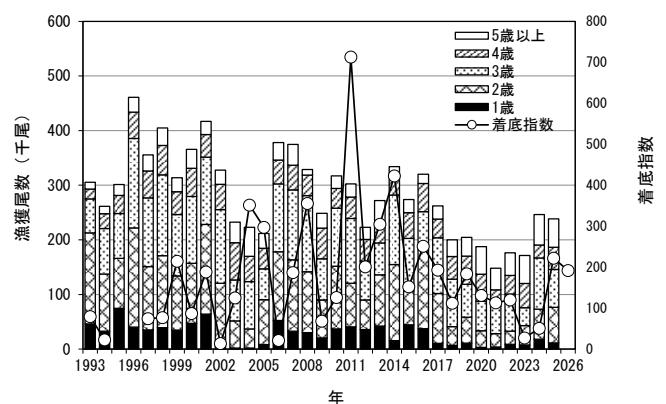


図 3 日本海のヒラメ着底指数と年齢別漁獲尾数の推移